The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	研究不正事例を踏まえた「チームで研究を実施する際に留意すべきポイント」
Author(s)	中村, 征樹; 市田, 秀樹
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/98576
rights	
Note	研究公正の推進に資する質問紙調査の活用に関する研究 https://research-integrity.info/2019amed/

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

＼ 研究不正事例を踏まえた ／
チームで研究を実施する際に留意すべきポイント❷

研究チームのデータや成果の取り扱いに注意！

- ☑ 共同で行った研究の成果を発表する際、きちんとメンバー間で確認をとっていますか？
- ☑ 研究成果の取り扱いや公表方法について研究チーム内であらかじめ合意していますか？
- ☑ 研究チームの以前のメンバーが取得した研究データも管理していますか？

AMED「研究公正高度化モデル開発支援事業」（第2期）
研究公正の推進に資する
質問紙調査の活用に関する研究

本リーフレットは日本医療研究開発機構研究公正高度化モデル開発支援事業（課題番号 JP21oa0310006）の支援により作成した。

研究不正事例を踏まえたチームで研究を実施する際に留意すべきポイント②

研究チームの データや成果の取り扱いに注意！

共同で行った研究の成果を発表する際には、研究チーム内できちんと確認をとる

研究チームで行った研究の成果を、他のメンバーに確認することなく学会発表や投稿論文で利用したことが、「盗用」として問題になるケースが発生しています。研究チームのメンバーが取得した未発表のデータ・資料だけでなく、研究ミーティング等で共有されたアイディアも、了解を得ることなく利用すると問題になります。

研究チームで行った研究成果や、その過程で得られた情報等を発表する際には、研究チーム内できちんと確認・了解をとるようにしましょう。

発生事案

不正行為：「盗用」/ 研究分野：人類学（不正事案 2015-01*）

研究室に新たに着任した研究者が、当該研究室の大学院生らが以前に作成した学会発表用のパワーポイント資料を、当人らの使用許可を得ずに、また、適切な引用表記をせずに、翻訳して招待講演の講演資料の一部として利用した。これらの行為について、「盗用」が認定された。

なお、当該研究者は、あくまで研究グループによる研究成果をひろく紹介する目的であったと説明しており、調査委員会はその説明を他の証拠等から「十分に理解できる」と評価している。研究チーム内で事前に確認をとれば、適切な対応がとれたものと考えられる。

研究成果の取り扱いや公表方法について、研究を開始する段階で研究チーム内で合意を形成する

研究チームで行った研究の成果を発表する際、だれが共著者になるのか、ファーストオーサーになるのかは、問題がしばしば発生する場面です。また、研究を通して取得した研究データの取り扱いをめぐっても、認識が行き違うことがあります。

第 3 回研究公正国際会議で採択された「境界を超えた共同研究における研究公正に関するモントリオール宣言 **」では、

共同研究を始める段階で、

・研究データ・知的財産・研究記録の利用・管理・共有・帰属について

・オーサーシップと謝辞の基準について

共同研究者間で合意を形成すること、その後、必要に応じて見直しを行うことを勧告しています。

研究チームの以前のメンバーが取得した研究データも適切に管理する

研究が終了したあとも、研究で得られた生データ（インタビュー記録なども含む）や実験ノート・フィールドノート等を適切に管理・保存することが必要です。これは、卒業・修了などにより研究室を去ったメンバーについても同様で、研究室主宰者はそれらのデータについても適切に管理する必要があります。

日本学術会議は、研究データ等の保存期間について、資料（文書、数値データ、画像など）は当該論文等の発表後原則 10 年間、試料（実験試料、標本）や装置など「もの」は同 5 年間というガイドライン *** を示しています。研究機関もルールを策定しています。所属機関の規定を確認しておきましょう。

出典情報

* 文部科学省「研究活動上の不正行為（盗用）の認定について（2015-01）」. https://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/fusei/1360843.htm

** World Conference on Research Integrity. 2013. Montreal Statement on Research Integrity in Cross-Boundary Research Collaborations. https://wcrif.org/guidance/montreal-statement

*** 日本学術会議 . 2015.「回答 科学研究における健全性の向上について」. https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-k150306.pdf

本リーフレットは 中村文彦 , 市田秀樹 , 中村征樹 . 2021.「共同研究で何に留意すべきか：国内の研究不正事案からの検討」. RI: Research Integrity Reports. vol. 5. pp. 41-57. https://doi.org/10.24729/00017487 を元に作成した .

大阪大学 OSAKA UNIVERSITY

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 AMED

【本リーフレットに関する問合せ】
研究代表者：中村 征樹
大阪大学 全学教育推進機構
E-mail：inquiry-amed19@research-integrity.info